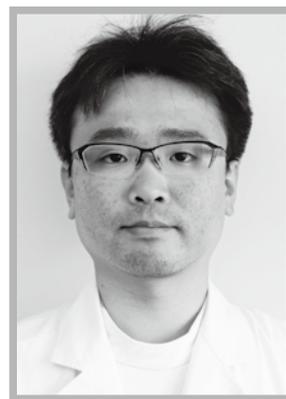


はい 肺がん

Lung cancer

庄原市立西城市民病院
内科医長

吉光 成児

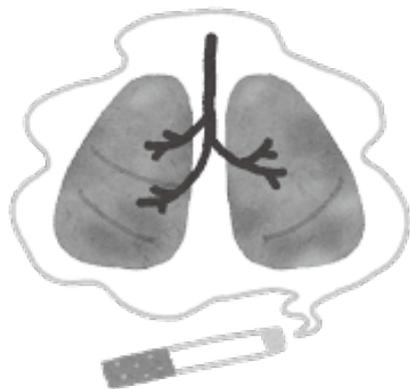


1. 肺がんとは

肺がんとは肺の気管、気管支、肺胞の一部の細胞が何らかの原因でがん化したもので、現在、日本人のがんによる死亡原因の第1位になっています。

2. 原因は？

原因の中で最も影響が大きいのは喫煙です。疫学研究で日本人を対象とした喫煙者の肺がんリスクは、非喫煙者に対して男性で4・4倍、女性で2・8倍と報告されており、男性では肺がんの69・2%、女性では18・9%が喫煙によるものと推計されています。家庭内で、夫が喫煙していて妻が非喫煙者の場合、妻が肺がんになるリスクは、夫が喫煙していない妻に比べて



1・3倍高くなっています。

また、喫煙による発がんリスクの大きさは、同じタバコを吸う人でも遺伝的素因で変わる可能性が指摘されています。その他の原因として、飲料水中のヒ素やアスベストの吸入などがあります。PM2.5など大気中の微粒子の吸入も原因として検討されています。

3. 症状は？

症状として多いものには、長引く咳、体重減少、呼吸困難、胸痛、血痰、嘔声（声がかすれる）などがあります。しかし、無症状のことも多いため、健診などでの胸部X線撮影や胸部CT検査などで発見されることが多くなっています。

4. 検査は？

肺がんが疑われる場合には、まず胸部X線撮影、CT検査、血液検査などを行います。その後、喀痰細胞診や気管支内視鏡検査、経皮的肺生検、胸水の検査などを行って肺がんの細胞や組織を採取し診断を確定します。また、別の臓器への遠隔転移の有無を調べるために、脳のMRI検査や腹部のCT、

骨シンチグラフィ、FDG・PET検査を行います



5. 治療は？

治療には、おおまかに手術療法、化学療法（抗がん剤治療）、放射線療法があります。どの治療が選択されるかは、がんの進行度や患者さんの体力、合併症の有無などを考慮して決定されます。患者さんの体力がかなり低下している場合や、治療困難な合併症が存在する場合には緩和療法のみが行われる場合もあります。

6. 最後に

肺がんの予防には禁煙が最も重要です。長期にわたって喫煙していた方など肺がんにかかりやすい因子を持っている人は、特に注意が必要です。早期に発見できた場合には完治も可能になっていますので、定期的に健診を受けて早期発見を心がけることがとても大切です。